

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

</





蚕茶并紙木植方書

耕作と蚕は衣食也奉る神の御事より也
云々穀は少すでも多く四本や五本乃はらす其用
多きい素なりふあくと蚕とは百姓へまつて
上トとほづさしれぬむうは
矢子様侍きまた様も侍ふうきとま
ゆゑとれりまふをまとやすしをよき
てやうひこさますとたうてくわゆりすと
すかあくみれりけのれ皆よのうくわゆ
なげきばだくふしてよゆ一まやうくばそ

のうちれよきをくじて
兩太神宮は奉りて四神酒をひ傳へられとす
上うけまかを経て御時、室ももきげんと
よきをすとすとあはうと、おほせた
めーたらとよてけよゆのまし乃もよ
ゆゑにけり何事うきて、香々香よはー
きつとく、さくはあたへる、けり
た、涼、て言わよしなく多く含む
ほが、氣性、下へて、いと同も言へりうす

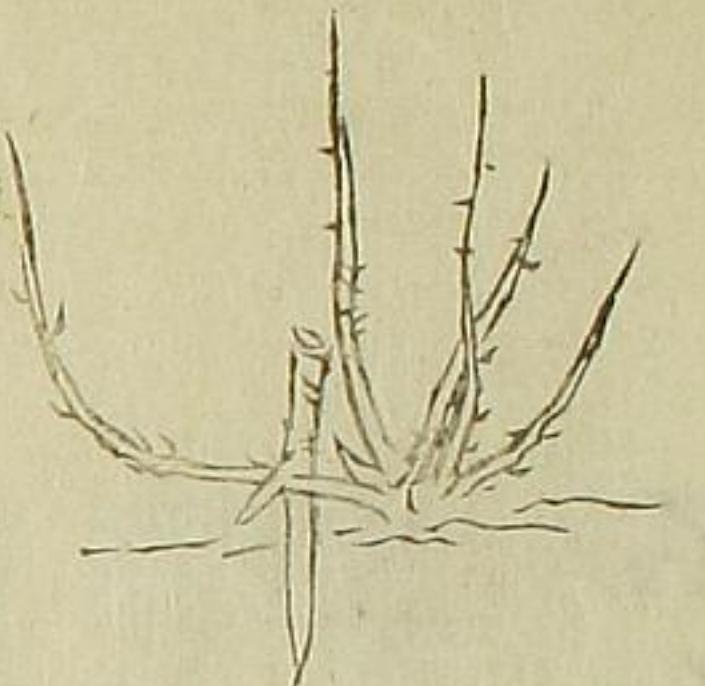
のうちらじとぞ被さねよやく、懶へ度と
春ふ風、葉とやるよ四處のねむりきぬと
ぬき、後、和あすけとあくやすみあく
せめ、春、あんまり、のす、城さしたぐ
の、ま、葉よりあをぢ、うるやうすばー
表、盆、瓶、多くくもひるかどよとす、廻し
さて、茶と春ふのは葉、多くて、い、うれす
素、烟をおほく仕立て、おれも先ゆ地図
をねこーおう、はとじうーと芋をつう
それぞ茶の実とまつて、いはよー茶

烟をすて其間くよ葉をとる春子。まことに
夏子すても仰ひそめくりせがそれも茶れさ
げんじよろこびれあと秋芽出でまゆ年
乃う葉とざくらの余れ蓋もだらりめに
葉烟もか地多き所ハ葉を極きの利多く
茶をすても十キロ挽きば一反曲る十石
の利ハオツバ一そせ茶の中より葉をせ
里春春をなす付にこども一石の葉にて十
五支サアの糸とくるやうなむれあ
一茶をすには長く南小よしと立す耕化

小手うしすすうるさるはちく縛をひき巾をう
尺ぢうるはゆさますぢうりも土をやり上げる
下とよくみぢへ肥を十石よりおき茶の
實のよきと外はをうちほづてまんざんを
けのうよ前き實とえれはこのすげあをやう
一ゆいきまます、おもむくほのちきぐんあし
きをばぬをきりてひづきよちとづる
がとて又よぶがまくとも本のまよてを
おりいがまことうりててゆくよをぬ
まきつづまとも右のとくよせすむよ

しやく通例の耕化とて茶の木をうち
まではさの間々お庭の作物のときも皆
耕化すきばあもあらずひが茶もあやし
とくはあら茶のゆが木見るときぐる
よ奈をつむぎうらおもてのうりぬく
すまじい株うりて三四年あらむるが
新芽せて七八もむすむかの葉子もあり
やもみのふを養やしきすか一束
一束のうり本へた葉れ厚き葉うきくも
ううけ本へときハもかへと風きて垂れ

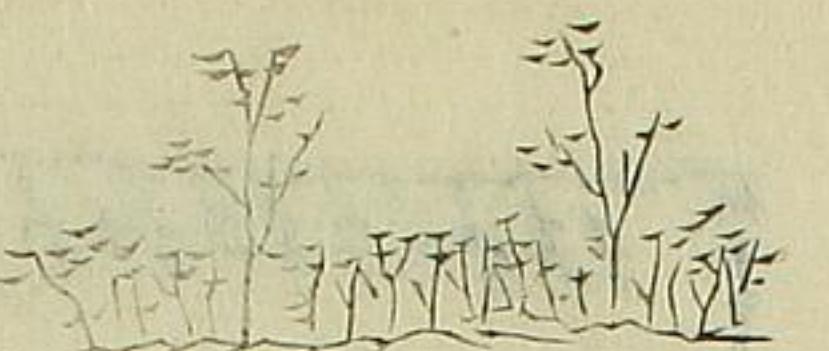
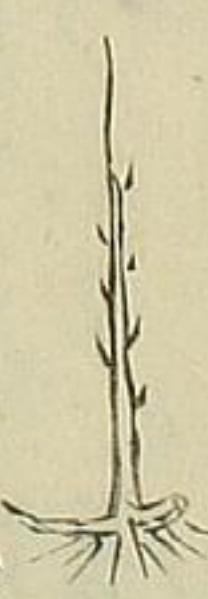
のうすゆゑすまなり余性りよる九月そ
せう西へてみのやへまくえあまう唐そ
魯素まくまくとて男葉とて本葉うきる
をまの葉をくぐる會うとせはせあらう
ははのどゆき朝葉とがまくねすでひは
すまむゆゑはく葉れ利氣しどり本へ葉をし
きく細の葉はうら葉れ葉の枝の葉はくわ
たまきくねと四方へねうふれくは
のくふと連はくともねあらひ
石とがよねみてもよしきふをねよちと



は ま

5

かけおも葉の芽いとよ四るすみ
いとくわきまちとけむせられあま
ヨレ根りれ芽をうきとりよゆめよ
あやしめくわくさくさく二そくによ
モナリくさむとくわとふくすづて
まどくがくら新根多くゆすすりま春い
じんきんねくじくとくとくは枝よりあくわ
うふ新芽いとねあく根多くゆるを下る
おゆかきいとくあく葉や
うしと草よ茶畑の間よ植はくよは



は ま

かげおも葉の芽いとよ四るすみ
いとくわきまちとけむせられあま
ヨレ根りれ芽をうきとりよゆめよ
あやしめくわくさくさく二そくによ
モナリくさむとくわとふくすづて
まどくがくら新根多くゆすすりま春い
じんきんねくじくとくとくは枝よりあくわ
うふ新芽いとねあく根多くゆるを下る
おゆかきいとくあく葉や
うしと草よ茶畑の間よ植はくよは

かげおも葉の芽いとよ四るすみ
いとくわきまちとけむせられあま
ヨレ根りれ芽をうきとりよゆめよ
あやしめくわくさくさく二そくによ
モナリくさむとくわとふくすづて
まどくがくら新根多くゆすすりま春い
じんきんねくじくとくとくは枝よりあくわ
うふ新芽いとねあく根多くゆるを下る
おゆかきいとくあく葉や
うしと草よ茶畑の間よ植はくよは

かげおも葉の芽いとよ四るすみ
いとくわきまちとけむせられあま
ヨレ根りれ芽をうきとりよゆめよ
あやしめくわくさくさく二そくによ
モナリくさむとくわとふくすづて
まどくがくら新根多くゆすすりま春い
じんきんねくじくとくとくは枝よりあくわ
うふ新芽いとねあく根多くゆるを下る
おゆかきいとくあく葉や
うしと草よ茶畑の間よ植はくよは

一
木入^リ持^フて葉^ハを切^カて春^ハをまし
くのとせんとせんのき^ハな^ハ持^フゆ^ズす
木^キ本^木よすやト^ハて^シすよかよ^シは
印^シく^ハる^ハ事^ハと^ハ烟^ハを中^ミ四^ノ人^ヨ
火^ハ地^ハ面^ハ染^ムよ^チと^シすよ^アり^タき^ハあ^ゲ
下^ハよ^アい^ハど^アう^ム十^ハよ^ハ生^ハ持^フ
た^ハす^ム四^ノす^ム中^ミ四^ノす^ムよ^ア赤^チと^シ
セ^ハく^ハれ^ハ枝^ハみ^ハめ^ハき^ハを^ハ持^フ
小^ハ向^ハ前^ハや^ハら^ハじ^ハよ^ハ本^ハや^ハす^ムよ^ア赤^チ
ち^トよ^ハら^ハせ^ハひ^ハき^ハ葉^ハの枝^ハ

の根^ハあ^ハよ^ハす^ム引^ハげ^チと^シゆ^ムて
立^ハす^ムう^ムた^ハひ^ハく^ハ本^ハし^ムあ^ハ上^ハよ^ハう^ム山^ハと^シ
よ^アけ^ハ引^ハく^ハす^ムや^ハと^シめ^ムぬ^ハや^ハよ^ア
を^ハく^ハら^ハだ^ハて^シせ^ハせ^ハ芽^ハの^ハ上^ハよ^ハう^ム所^ハと^シ
は^ハ立^ハ芽^ハと^シめ^ムれ^ハり^ハ本^ハ（^ハ）^ハ引^ハ根^ハも^ハだ^ハ
け^ハ芽^ハよ^アが^ハ二^ハ三^ハも^ハす^ムば^ハ地^ハ
あ^ハく^ハ前^ハよ^アて^シせ^ハの^ハ木^ハも^ハ内^ハ
枝^ハよ^アす^ムよ^アか^ハ木^ハよ^アと^シく^ハは^ハの
う^ムと^シ赤^チよ^アは^ハ細^ハ地^ハよ^アせ^ムお^アれ^ムと^シ
ふ^ムき^ムの^ムは^ムも^ム赤^チよ^ア木^ハと^シて^シす^ム

アモリをとくのまでもアモリとす
モモアハメタヨリモカモヤシルハモ
ヨウチヨリ日のおもてはいにナヘモ
ズサガセスヨハヌマニモマヌヨサセ
聖春利ヨ奈細ヨツバ植チ原ヨリカ
ヒサヒ、前条のや細キ、今アモカ
アカスヨハ肥い酒シテシテ持るとおど
る事ナシ
一奈の侍ミ、まホ持、アモリ二毛子
モテス六人よ幹とみてまととやわせば

とくにやうすと年かくわゆる根ごろ、ちゆよも
とくにやうすと年かくわゆる根ごろ、ちゆよも
よふ。アリ葉いとをまぢのり。掠りと
あくをきと茶物いとが、ちやが
がきいねふきつよ。枝も葉も地へておきたり。力
くるは湯とよ研おれ。おれよりすりとされ
なあすけをすみぬぬや。よかとる。龜
ゆづらひさる、根まで。ゆづらひさる、根まで
ゆづらひさる、根まで。ゆづらひさる、根まで
茶素のまよすもあり。所茶のまよすありは

紙筋と糸を年々二三枚ち用ひるよ量と
うへておまほうもとせんじたる御
えすとびりて、實子とぬくしたる御
用子たぬしかり候。二年まで用ひれ
ゆゑ材のす唐葉の産すむ御とよりか
三里の功持。貢同にて賣候。之
てはとせきにふもよ紙烟もよ
す一石をせがおぐ。あらわいだ
そひふさぐと
右四本の事は利多
とある事あり

もかまく
喜びをもつて
烟の煙草の煙
ゆき地までをあわせ
野原の煙草の煙
野原の煙草の煙

わのまみゆのうちアゼは紫茶の末
をひらはせてもうひきよがしのく人
竹川綠庵は戸口あめが原と申小屋
けぬわゆのふりかよがわのく
かとくのむき茶菴紙のけのた
一見ふきてひとひりよもくわる
のちにて就かぬいのむ

蒙古の秋
羽音波抄記

早稻田大学図書館

011488479646